

News Letter

令和
4年
8月

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

熱中症の心配もしなくてはならない夏本番の時期となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか？さっそく Newsletter 第53回配信です！ どうぞお楽しみください。

〈 診療科紹介 皮膚科 〉

皮膚には、水分調節、体温調節、生体バリア、感覚器としての様々な役割があり、生命を維持するために必要不可欠な機能を有しています。皮膚は常に外的な刺激や環境変化にさらされており、通常は調節機構が働き正常に保たれていますが、遺伝的背景や外的刺激の強度や頻度によっては様々な異常が生じます。

皮膚科は、他科との関連が深く、内科的診断、外科的治療、病理学的診断、遺伝子診断など、様々な手段で診断と治療を行う診療科です。当科は、大学病院として高度な医療を提供するとともに、栃木県全域だけでなく近隣県からの患者も受け入れており、地域医療における重要な役割を果たしています。Common disease から rare disease まで、老若男女、皮膚科学の観点から他科領域の疾患でも皮疹を生じる疾患にすべて対応しています。さらに地域ごと、大学病院ごとの特徴を生かして、全国の皮膚科医師同士が連携しあって診断・治療を行っています。

当科の医局員はベテランから若手まで幅広く、エネルギーに仕事に取り組んでいます。コロナ禍にあった 2021 年の日本皮膚科学会総会では、大槻マミ太郎教授を会頭に、皮膚科学会における初のハイブリッド開催を大成功に収めました。当科は、症例が豊富で、専門研修に必要な経験を短期間でこなすことができます。そのため、他大学からの研修希望も多く、当科での研修後は、それぞれの医局に戻って活躍しています。

当科では、特にアトピー性皮膚炎、乾癬、自己免疫性水疱症をはじめとする皮膚免疫疾患の症例数が全国的に見ても多く、生物学的製剤、分子標的薬による診療経験も豊富です。さらに悪性黒色腫をはじめとする皮膚悪性腫瘍に対する手術件数も多く、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬による治療経験も豊富です。

見学は随時募集しておりますので、興味のある方は是非一度お気軽にお問い合わせください。



【医師国家試験予想問題】

皮膚科の国試出題数は 113 回：8 問/400 問（2%）、112 回：9 問/400 問（2.3%）、111 回：11 問/500 問（2.2%）、110 回：9 問/500 問（1.8%）と、例年の出題は 10 問（2%）前後です。皮膚科疾患は他科においても遭遇する機会が多いため、国家試験に出題されるような基本的な疾患について知っていることは、医師として働く際に非常に重要です。教科書を使って、知識の整理をしながら、こんな皮膚疾患もあるのだなと楽しみながら勉強できるとよいですね。

教科書としては、【標準皮膚科学】や【あたらしい皮膚科学】などの標準的な教科書、さらに皮膚科医を目指す方にはフィッツパトリックやレーバーなどの専門的教科書をお勧めします。

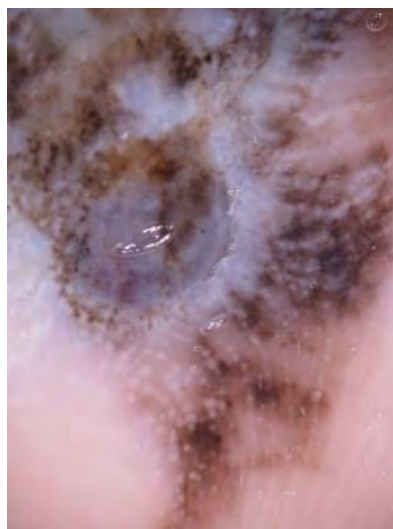
- ・設問1 臨床的に悪性黒色腫(メラノーマ)を最も強く疑うのは次のうちどれか。
- a. 左右対称性の黒色斑
 - b. 黒色調の角化を示す結節
 - c. 境界明瞭な直径6mm大の黒色丘疹
 - d. 数年間増大していない5mm大の柔らかい丘疹
 - e. 最近自然に出血するようになった赤色調で一部黒色の部分のある結節

正解 e

解説

悪性黒色腫では初期に色素性母斑との区別が困難なことがあり、下記の悪性黒色腫を疑う臨床所見の ABCDE ルール（診断指標）が参考になります。A：Asymmetry（不規則形）、B：Borderline irregularity（境界不鮮明）、C：Color variegation（色調多彩）、D：Diameter enlargement（直径 6mm 以上、拡大傾向）、E：Evolution（性状の変化）です。

通常は角化は示さず、進行すると隆起して結節・腫瘤を形成し出血しやすくなります。



参考写真：足底に生じた悪性黒色腫

・設問 2

写真の臨床像から想起される疾患の中で最も考えにくいものは次のうちどれか。

- a. 尋常性乾癬
- b. 尋常性天疱瘡
- c. 中毒性表皮壊死症
- d. Stevens-Johnson 症候群
- e. ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群



正解 a

解説

臨床写真では、軀幹に広範囲に多発するびらんを認め、眼瞼、口唇にも出血性のびらん面が存在しています。a を除いて、すべてびらんを生じうる疾患です。a の尋常性乾癬では通常浸潤のつよい落屑性紅色局面が多発し、びらんは生じません。写真で示した症例は尋常性天疱瘡です。水疱は弛緩性で破れやすく、口唇・口腔粘膜、食道粘膜にびらんが出現することで、時に食事摂取不能の原因となります。また、皮膚にびらんが出現することもあります。

尋常性天疱瘡では、血清中に表皮細胞同士の接着因子であるデスモゾームに対する自己抗体が存在し、これが表皮内水疱形成の原因になります。

c と d はともに重症薬疹であり生命に関わることがあるため全ての医師が知っておくべき疾患です。b, c, e では Nikolsky 現象という共通した特徴を示します。